

2010年度 SSテーマ一覧

教員名	テーマ	概要
中村	1Q:宮澤賢治のある作品を読んで解説	宮澤賢治の作品には科学の知識がないと理解できないものが
	2Q:同上	同上
玉置	「Campus Life」の設計	大学生活を主体的に、自主的に充実させ、実りある学びをする間の生活設計をし、合わせて、社会人としての準備を行う。
杉田	システム工学群	LED照明で工学を考える
	マネジメント学部	新聞記事からビジネスを図化する
高崎	テーマ1:絵画を読む テーマ2:モデルロケットの打ち上げ	各種資料を題材に、今後の学修に必要な基本的スキル(読み、対話、協働、工学的興味)向上のきっかけとする。
瀧野	1Q:地場企業と協働で現物、他社比較分析をしながら顧客満足をする新製品の設計品質設定を体得する	フレッシュな発想ができる学生と募集した地場の企業が協働して、学生は現物と企業人に接しながら理論と実践を50%程度実施し新製品開発・改善を体得する。協働企業にも新製品開発手法を体験してもらう。本年は「書類情報末梢の新製品開発」をQFD(Quality Function Deployment)の方法を①「顧客(学生)の生の声・原始データの収集・シーン展開からKJ法による要求品質展開表」、②「品質要素を考える」、③「他社品比較分析」、④「設計品質設定」を行って⑤1Qの成果物として「品質表」を作成する。
	2Q:地場企業と協働で新製品の設計品質を達成する技術開発、失敗防止、売れる新製品価格の設定を理論と実践で体得する	1Qを引き継ぎ、①機能展開:「書類情報末梢の新製品開発」の機能(はたらき)を考える。②基本機能を実現する機構(メカニズム・方式・技術)を考える。③技術開発を「レビュード・デンドログラム(RD:Reviewed Dendrogram)」を使って考える。④失敗予防をFMEAで実施する。⑤品質とコスト比較分析(VE:価値工学、VA:価値分析)でコスト低減をする。⑥売れる売価設定をQFDmで実践する。1クラスを2チームに分けて、個人演習書を作成してから、個人演習書を持ち寄ってチーム演習書を作成。次回にチームAとBが発表して違いをディスカス、リーダー・発表者・記録係を全員に順次体験することにより個人の考える力、チームコミュニケーション力、発表力、リーダーまとめ、書記のまとめを個人だけよりチームで視野が拡大、深まることを実感してもらう。
水口	1Q グループワーク 2Q グループワーク	自己紹介、自己発見プログラム等を通して、班の大学生活設定する。グループでの自分の分担、コンピュータリテラシーを応用し、共に、問題発見とその解決策を探る。
酒井	問題解決のスキルを磨く	問題を自ら発見し、効果的に解決する手法について、ケーススタディーを通してスキルにまで磨き上げることを学習する。また、問題の解決にあたっては、一人ではなく相互依存性のあるチームとして取り組むことを学習する。
島	1Q、2Q 視野を広げ、自分の未来史を考える	SSとして、学習の基礎能力を涵養することに努めながら、広くも興味を持つことを演習中心で実践する。資料精読、映像を見ての考察など、グループワークと個人レポートで授業を構成する。
中山	ロケットを飛ばそう	モデルロケットの工学的基礎学習。組立から打ち上げまでの演習課題を実施し、大学に必要な基本スキルを磨き身につける。
山崎	(1) 親睦と融和を図る	「幸福に必要な3つの条件についてのビンゴゲーム」を通じて、お互いうちとけ、仲良くする。
	(2) プレゼン力を磨く	5つのテーマ(バブルラップ、ツイッター、トヨタリコールなど)から各グループがひとつ選択し、毎回プレゼンを行う。個人発表とチーム発表でプレゼン力の向上を目指す。
柳井	人の心を動かそう	自らの言葉が相手に届くのか、自己紹介、キャンパスでの生活、インタビューなどを通して体験に学習する。
小林	コミュニケーションの楽しさを知ろう! (1Q、2Qともテーマは共通)	「コミュニケーション」があなたの豊かな生活や充実した大学生活、さらには、やりがいのある仕事で活躍するための唯一で最高の手段であることを楽しく学びます。「企業活動を理解すること」があなた自身を高めることになることを体感してもらいます。